

葬祭会館の新設や新サービスで ワンストップサービスの実現へ

課題

葬祭会館がない地域の 住民のニーズに応える

仙北市角館町で、葬祭業を営む株式会社丸栄堂。1975年の創業以来、主力の葬祭事業をはじめ、墓石の設計・施工、霊園管理、墓地分譲、仏壇仏具販売、少額短期保険代理店事業などを手がけてきた。2014年からは、決算期ごとに経営指針書を作成し、経営理念や経営方針、経営計画を全社員が共有し、顧客満足度の向上に努めている。そして、キャッチフレーズ「まごころ込めて」に基づいた経営方針による、親身な顧客対応やわかりやすい料金設定、故人や先祖を主役とした葬儀施工のスタンスなどが、顧客から評価されてきた。

同社の葬祭事業は、一般葬が中心で、故人の自宅や寺院を利用するスタイル。しかし、仙北市内に存在しない葬祭会館のような施設があれば利用したいという住民の声をよく耳にしていた。また、故人や先祖を中心に考える同社のサービス提供のあり方において、自宅や寺院では実施できるサービスに制約があることも、篤いサービス提供を行いたい同社にとっては課題だった。こうした地域のニーズや自社の課題を解決するため、同社では葬祭会館の新設をはじめとする取り組みを開始した。

支援

各種補助金活用で 段階的な支援につなげる

同社の課題に対し、仙北市商工会では2017年、経営革新計画の策定を支援。その内容は、新たに葬祭会館を設立することで、事前相談から葬儀、墓石の建立まで対応するワンストップサービスを実現するというもの。計画は無事承認され、同年、葬祭会館「わごころ」をオープン。商工会では同年、ワンストップサービスを広く周知するためのチラシや看板作成を小規模事業者持続化補助金で支援した。

その後も同社は、商工会の支援のもと、2018年にIT補助金を活用して葬祭業専用管理ソフトとタブレット端末を導入。また、血縁に関係なく大勢の遺骨を葬ることができる「合葬墓」の建立も実施。これは墓の後継者が不在の場合でも故人の永代供養を可能にするもので、「終活」の選択肢のひとつになるとともに、「墓じまい」という地域の課題解決にもつながることが期待される。実施にあたっては、仙北市中小企業活性化補助金を活用した。



オープンした葬祭会館「わごころ」

さらに2019年には、ふたたび持続化補助金を活用して、今度はホームページのリニューアルを行った。「合葬墓」の周知とともに、「終活」というコンテンツを設けて葬儀や墓についての理解促進を図り、新規顧客の獲得につなげるのが目的だ。あわせて、ホームページ上でお悔やみ欄を掲載し、香典・弔電の代行の新サービスもスタートさせた。

葬祭会館の新設をはじめとしたワンストップサービス実現に向けた取り組みは、各段階において各種補助金を活用することで費用面の負担を軽減できた。また、同社の売り上げも順調に伸び、新卒者1名の雇用にもつながっている。

支援の経過

期間	支援内容
2017年1月～5月	経営革新計画の策定支援
4月～5月	持続化補助金の申請支援
2018年3月～7月	IT補助金の活用支援
4月～12月	販路拡大支援
2019年4月～7月	持続化補助金の申請支援

会社概要

会社名：株式会社丸栄堂
住所：秋田県仙北市角館町下菅沢195-1
電話番号：0187-54-2267
URL：http://marueido.jp
代表者名：代表取締役 三浦大英
創業年：1975年
従業員数：5名
商工会名・担当者名：仙北市商工会・千葉友作